（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2779000348		
法人名	医療法人六三会		
事業所名	グループホーム　さやまの里		
所在地	大阪狭山市岩室2丁目185－11		
自己評価作成日	平成28年6月24日	評価結果市町村受理日	平成28年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2－1－8　FGビル大阪　4階
訪問調査日	平成28年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症になってもその人らしくをモットーに、利用者様が安心して笑顔で暮らせるGHを意識して、食事・入浴・外出など利用者様と共に過ごす時間を大切にしております。1日3回の食事作りも得意分野での参加を促し、掃除・洗濯も毎日体を動かす目的で取り組んでいます。個別の外出や、利用者全員での外出はもちろん家族様と合同外出も取り入れ日々の生活にメリハリを付ける様に取り組んでいます。年に一度の一泊旅行は恒例となり利用者様の生きがいの一つとして好評を得ています。又、ボランテイアや介護相談員・実習生なども積極的に受け入れオープンなGHを目指しています。家族との交流・地域とのふれあい・そして何より一人一人との関わりが笑顔と会話が交ざり合う・・・　それがグループホームさやまの里です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所して15年余となり、当初からの主要メンバーも多く、介護福祉士8名中に認知症ケア専門士2名、認知症介護実践研修済4名（内リーダー研修3名）を擁した陣容により、1ユニットという形成もあって日々のケアに様々な工夫や試みが行われている。
利用者と一緒に献立つくり、買い物、調理、盛り付けに配下膳の日常化、下階デイケアでの生花や陶芸クラブに参加、体力等状態に沿っての日常的な散歩や年1回の一泊旅行など、一般的な暮らしの継続がみられる。
永年勤続者と新規入職者との経験値のバランスを取りながら人材育成に力を注ぎ、更なるサービスの質の向上を目指し、地域での認知症ケア専門集団として認知度を高めたいと努力している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げ職員全員が理念を共有し日々のケアに取り組んでいる	法人理念の 笑顔、真心、気配り を基本に、「地域に根ざした家庭として馴染みの関係を築く」を理念として掲げ、その具体性を理解し、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加・ボランテイアの受け入れ、地域住民の方との交流を継続的に行っている	神社の祭礼や公民館での歌声サークル参加、年4回地元高校生との交流、男女1人ずつ週2回の暮らしの中での交流、支援学校生徒の実習受け入れ等、機会を有効に活かしての地域交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症声掛け訓練など、地域の小学校・公民館・市役所やタクシー会社等に出向き、情報を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告や意見交換・ビデオ鑑賞などを交えて意見を集約し、サービスの振り返り、向上に活かしている	開催期と家族参加数については順当であるが、地域住民の参加が民生委員と介護相談員であることと、会議にビデオ活用の効果は認めるが、内容が事業所報告を主としてマンネリ化している点は今後の課題とする。	地理的要因で住民への参加要請は難しいと察するが、交流のあるボランティア・認知症家族の会・タクシー会社などへの働きかけによる参加者増で、グループホームへの理解が深まると共に、サービス向上・地域貢献度アップに繋がることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者を交えた地域密着部会の開催にて、事業所の実情、取り組みを伝えている。同時に他事業所と情報交換し、交流を図っている	担当部署には業務上の連絡・相談を適正に行い、空き室状況などの情報交換、地域密着部会への参加等、協力関係は良好に保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の全体会議やGH会議、研修を通じて身体拘束について理解を深めている。「抑制廃止宣言」事業所内に掲げ常に意識するように心がけている	心身ともに拘束については正しく理解している。現在、一人だけ転落に備えてセンサーマットを使用しているが、月１回の話し合いで注意深く推移を見守りたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人の内部研修や外部研修にて虐待に関する理解を深めるように努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて制度の理解を深め、必要に応じて地域包括センターと連携し、支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族には分かり易く説明している。不安や疑問には、その都度、十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には意見・要望を表せる環境づくりを家族にはGHでの状況を発信しながら運営に参加して頂けるように努力している	面会時のほか、参加率の高い運営推進会議で本人状況や日常業務(ヒヤリハットなど)について報告し、意見・要望を聴き取り運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議にて意見交換し、提案についても前向きに反映させている	月1回の職員会議や2ヶ月に1回提出する文書(記名式)で意見・提案を取り上げ、法人4事業所の全体会議で検討、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課時に助言を行い、個々の職員の努力、実績を評価し向上心を持ち続けられるように行われている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加はもとより、一人一人が日々研鑽していく機会を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHに赴く機会を作り、相互による情報交換にて、サービス向上につながる視点を持つようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や言葉で困っていること・不安や要望等をじっくりと傾聴し、安心できる関係が出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事を受け止め、家族の気持ちに寄り添い、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所のサービスを把握し「その時に何が必要か」を考案し、適切なサービス利用が出来るように対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切にし、本人をよく知る様に努めている。また、人生の大先輩として教えられ支えられる関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とこまめに連絡をとり、本人の状況を伝えながら協力を得て、本人を支え共に支援が出来るように提案している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活習慣を考慮しながら支援している。美容院や百貨店等、家族に協力を得ながら継続できるように取り組んでいる	入居して15年余から10日足らずの人、馴染みへの拘りに差がある中、日々の暮らしからの気付きや家族の協力で馴染みの継続に努め、ホームでの馴染みも大切にしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見守り、互いに助け合える場面を作り、楽しく生活できるように支援している		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の関係者や家族に、グループホームでの生活を詳しく伝えるようにしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話で思いを聞き意向を把握するように努めている。会話ができた頃の記録をもとに職員同士で思いや意向に近づくことができるか情報の共有に努めている	入居する経緯や生活歴、会話の端々から「出来ること＋好きなこと＝満足」を見出す、その人となりをより深く理解するために、観察力・洞察力・推理力を高めたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい生活が継続できるように本人や家族と馴染みの関係を築くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる力を見出すために一日の暮らしや小さな気づきを申し送りノートに書き留めるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護する側の課題ではなく、本人や家族の要望を察知して気づきやアイデアを職員が出し合うようにしている。介護計画は臨機応変に応じていけるようにアセスメントやモニタリングをこまめに行うようにとりくんでいる	担当者・ケアマネジャーによるモニタリングと個人記録、3ヶ月毎のアセスメントを基に、職員意見や家族意見、医師の所見等を参考に介護計画を作成し、状況変化に応じて随時に見直しを図っている。全職員が利用者各人の介護計画を意識し、実践できる仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護専門用語ではなく本人の言葉やその時の状況を個別に記録して職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れ、介護タクシー、学習療法や生け花、陶芸などを通してサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや市の広報誌、教育機関の情報をもとに暮らしを楽しむ支援を展開している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は母体のさやま病院の認知症専門医と関係を築きながら家族が納得した医療が受けられるように支援している。必要な診療科目も本人と家族が馴染みの医師を希望されるときは、適切な医療が受けられるように支援している	医療法人を母体とし、家族・本人の納得を得て系列病院の医師が必要に応じた診療を行っている。家族の希望するその他専科については家族協力を基本とし、連携を密にするよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排泄チェック表、申し送りノートに日々の健康の様子を記入し看護師巡回時に診てもらい相談や適切な受診につなげるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時にはMSWとできる限り連絡をとり、入院によるダメージを軽減するために病院関係者と情報交換できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はターミナルケアは出来ないと早い段階で伝え、現状での支援体制を考慮し、ホームで出来ることを伝え、家族に理解・協力を得ながらチームで取り組んでいる	重度化対応については指針とその確認書の用意があり、病院搬送ぎりぎりまでの対応経験を有し、家族の納得も得ている。看取り対応については職員間の意識・意見の相違もあり、現状での対応に不安があり、検討中である。	利用者・家族の施設（住み慣れた所）での終焉を望む声は社会的にも高まっている。10年余になるチームケアの経験を活かし、暮らしを共にした人の看取りが、笑顔・良心・心配りで行えるよう真摯な検討と実行を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故対応についてGH会議や内部研修で定期的に訓練してる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練とGH独自の訓練を通して職員の意識を高め併設の施設職員と協力していくように努めている。防災用品もその都度見直ししている。	規定以外に年6回ほどの訓練を行い、大規模災害時に於ける福祉避難所個別協定（市連絡会）による地域内協力体制に参加の用意もある。一方、火災以外の災害についての具体的対策については確認し得えず、備蓄も3日分ほどである。	想定し得る諸災害について、地理的要因、構造的要因、利用者の特徴を考慮した独自の防災対策を立て職員へ周知徹底すると共に、備蓄品内容についても一層の再検討を期待する。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方、生活歴、性格に配慮し失礼のないように接している。プライバシーについても書類や排泄表、排泄介助、カルテの取り扱いには注意するように心がけている	開所以来の職員が多勢いるなかで、親しさがなれにならないよう、万事に於いて、家庭であって家庭ではないケジメを忘れないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の小さな決定事項も介護者の都合ではなく本人の表情や仕草で表現できるように「待つ」環境つくりをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに配慮したケアを実践しながらも居室にこもりきりにならないように一日の過ごし方に適切な関わりや動きが出るように工夫している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧やひげそりなどその人らしさを表現できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作り、買い物、食事作りを共に行うことで食事への関心や、食べることの楽しみを持ち続けて頂くように支援している	朝のパン食以外は、全員による献立で週2回の買い物と屋上菜園での収穫もありで毎回調理を行い、一緒に作り一緒に楽しく食べるを継続している。「ご馳走さん、美味しかった」の言葉と共にお膳を下げる男性の笑顔が何よりのご馳走のようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面や水分量、塩分に配慮して普段から食べ物や好きな味、食べ物の好みや習慣を把握するように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは本人の生活パターンや、出来る力をいかして頂き声をかけ見守り、援助するようにしてる		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握で紙パンツ、パットの使用方法を検討し、トイレで排泄できるように工夫をしている	夫々の個性に応じた対応と習慣の注意でトイレ誘導、介助品の適切な使用での自立に向けた支援等、様々な工夫と熱意での排泄介助がある。最近起こった頻繁な放尿の人への対応についても、知恵と工夫で乗り切ろうと全員で努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分だけでなくヨーグルトやゼリー、海藻類を毎日取り入れ、適度に身体を動かす機会を作っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが午後、午前とに分けて本人の状態や気分に合わせて気持ち良く入っていただけるように支援している	週3回を基本としており、多少浴槽の使い勝手の悪さもあるようだが、本人の希望に合わせ、また同性介助（通所の人）、重度者の2人介助など、ゆったり感を大事にした入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣を尊重し、寝不足や疲れが出ているときは休息する時間を持つように援助している。眠れない時は飲み物や、安心できるように声をかけてる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については家族様の意向を聞き、身体への影響、負担を考え主治医や薬剤師と相談するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知ったうえで個々の能力が発揮できるような役割を持っていただくように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出できる機会を多くもち、本人の希望でコンサートや以前に出掛けていた場所に行くことができるように家族様と協力しながら行っている。年1回の1泊旅行も実践している。	各人に相応したコースや時間で散歩を日常的に行うほか、週2回の食材買い出しや季節に合わせた外出行事、恒例の1泊旅行（利用者と職員）など、外出支援は十分に行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物ができるようにしている。預かった金銭は毎月、収支報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける、手紙を書く支援をおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてレイアウトをかえたり、利用者さまが立ち止まって目を向けるような工夫を凝らし楽しく生活できる場所つくりを提供している	2階に、台所・食堂・居間を中心にして各居室が左右に位置している。通所（規定3名）の人の居場所にも配慮した食堂、ソファーが人数分用意され観葉植物・生花・陶芸作品などに囲まれた寛ぎ感十分な居間など、広さもあり居心地良い暮らしの場所が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の配置は必要であれば替えて、利用者同士が語らい、何気ない会話ができるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を汲み馴染みの物を置いたり、あえてシンプルなつくりを尊重したりして本人が安心できる場所を提供している	在歴10年余、近日の入居、男性、女性と、調度品や壁面の貼物、写真の数や小物の彩りに差はあるが、夫々の暮らし模様が覗われる。窓の障子越しの光が居心地のよさをより増している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂けるように「出来ること」を優先した環境をつくるように工夫をしている		